

市政ニュース

竹野浜海水浴場が「快水浴場百選」に認定 「安らげる水辺」部門で5点満点

5月10日、竹野浜海水浴場が日本の「快水浴場百選」に選ばれました。

これは、環境省が、人々が水に直接ふれることができる個性ある水辺を積極的に評価し、快適な水浴場を広く普及しようと、平成13年に選定した「日本の水浴場88選」を見直したものです。「美しい」「清らか」「安らげる」「優しい」「豊か」の5つの選定基準に基づき、推薦のあった40都道府県191水浴場の中から100カ所の水浴場が選定され、兵庫県からは竹野浜海水浴場を含む4カ所が選ばれました。

竹野浜海水浴場は、特に「安らげる水辺」部門で5点満点を獲得し、安全性



▲白い砂浜と水のきれいな遠浅のビーチが人気の竹野浜海水浴場は、「日本渚百選」にも選ばれている

について高い評価を受けました。

竹野浜海水浴場では、7月25日から29日までの5日間、ナイター海水浴場を開設するなど新たなイベントが企画されています。ぜひ、皆さん、今年の夏は、「快水浴場百選」に選ばれた竹野浜海水浴場にお越しください。

行革タウンミーティングを開催 厳しい財政事情を市民に説明

5月18日から6月5日にかけて、市内6会場で約600人の参加を得て行革タウンミーティングを開催しました。

これは、市の厳しい財政事情を市民の皆さんに知っていただき、行政改革の必要性やその推進について理解を得るために実施したものです。各会場には市の幹部職員が出席し、家計に例えて市の台所事

情などを説明し、参加者は配られた資料を真剣に目を通して

いました。意見交換では「職員の削減方法と年次計画は？」、「増収の具体策は？」、「行革は民間感覚でやるべき」など多くの質問や意見が出されました。

なお、今回寄せられた意見は、市ホームページなどで紹介するとともに現在策定中の

コウノトリ文化館入館者数が100万人に到達 くす玉を割って節目を祝う

6月9日、市立コウノトリ文化館の入館者が100万人に到達しました。

100万人目となったのは、堺市から家族3人で訪れた曾田俊美さん。記念のくす玉割りや認定証の交付、記念品の贈呈などで祝福を受けた曾田さんは「民宿に泊まった帰りに初めて立ち寄ったら思わぬ幸運に恵まれました。コウノトリの保護活動を通して自然を大切に

しました。

同館は、平成12年に県立コウノトリの郷公園の敷地内に、「人と自然が共存できる心豊かな地域づくり」の拠点施設として整備されたもので、館内には、展示コーナーや多目的ホール、実習室などがあります。昨秋、コウノトリが試験放鳥されてから入館者数が急激に増加していました。同館の松島館長は、「100万人達成はコウノトリに関する関心の高さの表れとう

す。市行政改革大綱に反映します。



▲多くの意見や質問が出された行革タウンミーティング（5月24日、豊岡地区公民館）

れしく思います」と話していました。



▶入館者100万人の認定証を市長から受け取る曾田さん

但馬で大学入試センター試験

受験生と保護者の負担軽減に

昨年1月の大学入試センター試験から、但馬会場が設置されることになりました。

これまで、但馬内の受験生の多くは、神戸市内でセンター試験を受けていました。神戸で受験する場合、前日から宿泊が余儀なくされ、これが、子どもたちにとってストレスとなり、親にとっては、経済的に大きな負担となっていました。そこで、地元の高

校や保護者などからの願いを受け、今年2月、但馬内の市町長が県に要望し、今回の但馬会場の設置が実現しました。

現時点では、但馬会場は、豊岡高校に設置される予定で、受験者の収容数は600人程度見込まれています。なお、香美町と新温泉町の受験者は従来どおり鳥取県内会場での受験となります。

小学生がつまずきやすい「誤答例」集を発行

算数の基礎学力の定着に活用

豊岡市教育研修所（市教育委員会内）が、小学生の子どもたちが算数の基礎的な計算において、つまずきやすい問題を集めた「誤答例」集を発行し、小中学校の教諭などに配布しました。

この「誤答例」集には、昨年12月、小学校3年から6年までを対象に実施した、計算力の学習状況調査において、正答率の低かった問題が取り上げられています。その問題

について「子どもたちはどのようなつまずきをしたのか」「教師はどのような点に留意して指導すればよいのか」などが具体的に明示されています。今後、市では、教育行動計画の3つの柱のうちの一つである「基礎学力・基礎体力パワーアップ大作戦」を展開していくために、この「誤答例」集を積極的に教育現場で活用し、その成果についても追跡調査していきます。

兵庫県建設業協会豊岡支部と災害協定締結

災害時に建設業界が組織的に支援

一昨年の台風23号災害を教訓にして大規模災害発生時における災害応急対策を円滑にするため、兵庫県建設業協会豊岡支部（会員40社）と災害協定を締結しました。

この協定書には、災害発生時に市からの要請に基づき、同支部が人命救助や道路交通確保のため重機などを出動させ障害物の除去作業に当たることや、活動中に得た災害情

報を市に報告することなどが明記されています。

6月1日の調印式には、市長や川嶋 実支部長ら同協会の役員などが出席。市長が、「出水期を目前に控え、協定書を締結できたことは大変心強いことです」とあいさつすると、川嶋支部長は、「迅速な対応ができるように精一杯がんばります」と応えていました。

北但大震災防災訓練

不測の事態に備え防災訓練を実施

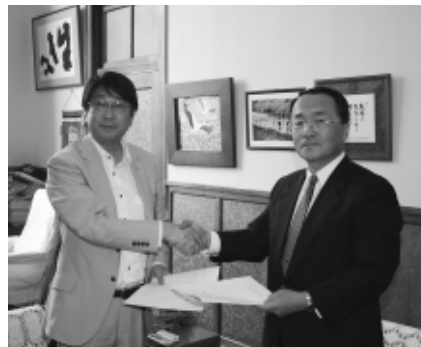
400人以上の犠牲者を生んだ北但大震災から81年を迎えた5月23日、城崎町桃島の菊屋島運動公園で、震度6強の大地震を想定した防災訓練を行いました。

当日は、市内消防団や自主防災組織、小学校、陸上自衛隊、警察など約500人が参加し、本番さながらの真剣な表情で、避難、救出、復旧訓練などに取り組みました。特に、今年新しい取り組みとして、

広い地域で災害が発生したことを想定した本庁と支所間の情報共有訓練や、河川内へ流出した家屋に取り残された人をボートで救出する訓練を行い、不測の事態に備えました。

一方、5月17日、JR豊岡駅に隣接する豊岡駅鉄道部構内では、JR西日本や警察、消防、医療機関など約370人が参加し、昨年4月に発生した福知山線列車事故を教訓にした県北部初の大規模な列

なお、これを契機に同協会とより一層の意思疎通を図るため、今後、防災対策について情報交換を行います。



▲調印を終え握手を交わす市長と川嶋支部長

車事故対応総合訓練が行われました。



▶北但大震災防災訓練では、関係機関が連携して、土砂に埋まった人を助け出す救出訓練が行われた